

令和4年度 ゆずり葉保育園 保育所自己評価

* 本園の職員（園長以下24名）が評価（ガイドラインに沿って作成した評価書）の実施をしたものを集計しました。 ※ 令和5年3月実施

<評価について>

評価をするにあたっては、集計結果を基に、概ね以下のような基準で評価を行っています。

A:よく出来ている B:ほぼ出来ている C:一部検討を要する D:改善を要する

		評価項目	評価	
I 保育の 基本 理念と 実践 に係る 観点	子どもの最善の利益の 考慮	1 保育理念や基本方針が、子どもの最善の利益を考慮したものになっており、全職員が理解し実践している。	B	
		2 子どもの人権尊重を意識して保育を行っている。	A	
	子どもの理解	1 育みたい資質、能力を理解している。	B	
		2 長期的な見通しをもった計画をたて、年齢ごとに必要な経験の機会を与えている。	B	
		3 子どもの意思や保育方針を理解し、実践している。	B	
		4 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し計画を立て、保育にあたっている。	B	
	保育のねらい及び 内容	乳 児 保 育 に 関 わ る ね ら い 及 び 内 容	1 離乳食については、家庭や栄養士、調理師と連携をとりながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている。	A
			2 一人ひとりの生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている。	A
			3 特定の保育士との継続的な関りが保てるよう配慮している。	A
			4 午睡中は体を仰向けにすことを認識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている。	A
			5 生活や遊びの中で、音、形、色、手触りなどに気付かせて様々なものに触れさせている。	A
			6 上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている。	A
			7 おむつの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している。	A
			8 発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言語の理解や発語の意欲を育てている。	A
9 誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している。			A	
1 歳 以 上 3 歳 未 満 児 の 保 育 に 関 わ る ね ら い 及 び 内 容		1 生活リズムについては、一人ひとりの子どもの状態に合わせて対応している。	A	
		2 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	A	
		3 楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	A	
		4 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	A	
		5 子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	A	
保 育 に 関 わ る ね ら い 及 び 内 容	6 一人ひとりの排泄状況に応じた配慮をしている。	A		
	7 保育士との安定したかかわりの中で、園生活を送れるようにしている。	A		
	8 他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけられるよう仲立ちをしている。	A		
	9 自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付いたりする経験を重ねていけるよう援助している。	A		
	10 玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている。	A		
	11 積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	A		
	12 見る、聞く、触れるなど感覚の動きを豊かにしている。	B		
	13 楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りができるようにしている。	A		
	14 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A		

保育の基本理念と実践に係る観点

保育のねらい及び内容	1歳以上3歳未満児の保育	15 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しませている。	A
		16 音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	A
		17 子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	A
		18 体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分行うことで感染症を予防している。	A
		19 事故防止に努めながらさまざまな遊びを取り入れている。	A
		20 進級などで保育士が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している。	B
	3歳以上児の保育に関するねらい及び内容	1 生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	A
		2 食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	A
		3 十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	A
		4 園内外の危険な場所を知り、安全に気をつけて遊ぶように働きかけている。	A
		5 友達と共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている。	A
		6 良いことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動できるように援助している。	A
		7 友だちと生活する中で、決まりがあることを知り、それを守れるように働きかけている。	A
		8 生活や遊びの中で、意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉がけや援助をしている。	A
		9 身近な友達との関わりを通して、相手を思いやりゆずり合う気持ちを持てるように援助している。	A
		10 園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を作っている。	B
		11 伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	B
		12 自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	B
		13 人の話しを聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている。	B
		14 絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気付くように心がけている。	A
15 子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	B		
16 音楽に親しみ、歌をうたったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている。	A		
17 一人ひとりの子どもの表現の過程を大切に、自己表現を楽しめるよう心がけている。	A		
18 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し保育にあたっている。	B		
保育の環境（人・物・場）の構成	1 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A	
	2 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	A	
	3 子どもが基本的な生活習慣を身につけることが環境の整備、援助を行っている。	A	
	4 子どもがのびのびと体を動かせるような遊びの環境を意識してつくっている。	B	
	5 子どもが自発的に表現するよう、自由に使える様々な素材を用意している。	B	
	6 生活や遊びの中で、食に関する興味関心が広げられるよう働きかけをしている。	B	
	7 身近な自然に触れる機会を用意し、季節感や豊かな感性を育む配慮をしている。	A	
	8 園児同士の関りで、順番を守るなどの社会的ルールを身につける配慮をしている。	A	
	9 子どもが主体的に活動できる場所を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	B	
	10 遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	A	
	11 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	
	12 長時間に渡る保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	
	13 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	B	

I 保育の 基本 理念と 実践に 係る 観点	保育士等の子どもへの 関り（援助・行動・言 葉・位置・タイミン グ・配慮等）	1	子どもの何気ない行動ひとつ一つに、それぞれの子どもの個別の育ちや発達を意識し、明確な保育の目標を持って関わっているか。	B
		2	子どもの気持ちに寄り添い、行動や表情に表面化されていない「気持ち」や「心の動き」をよみとることで、より良い育ちや学びにつなげるような働きかけをしているか。	A
		3	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A
		4	3歳未満児（1，2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B
		5	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B
	育ちの見通しに基づく 保育	1	全体的な計画は、長期的な見直しを持って計画をたて、作成には職員が参加し、内容が共有されている。	B
		2	一人ひとりの子どもの発達過程に合わせた目標や計画を作成し保育している。	A
		3	子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている。	A
		4	重要な申し送り事項を記録し、進級時等に引き継ぎをしている。	B
		5	園全体としての評価を行い、全職員の共通理解のもと改善に努めている。	B
II 家庭 及び 地域 社会と の連 携や 子育 て支 援に 係る 観点	入所する子どもの家庭 との連携と子育て支援	1	子どもの様子について日々、保護者に伝え情報を共有したり、園だより、クラスだより、連絡帳等により子どもの喜び合い、共有できる機会を設けている。	A
		2	保育参観、行事などを通して、保育内容・保育の目的などを分かりやすく説明している。	A
		3	個人面談を行ったり、保護者の気持ちに寄り添った子どもの相談援助を行っている。	A
		4	医療機関、児童相談所の専門機関と連携をはかり保護者にとって必要な情報を提供している。	B
		5	家庭状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	B
		6	家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	A
		7	あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A
		8	虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけている。	B
	地域の保護者等に対す る子育て支援	1	地域の子育て支援ニーズに応じて、施設の専門性を活かしたサービスを提供している。	B
		2	地域の行事等に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。	B
		3	保育所が機能を地域に還元している。	B
		4	地域の子育て資源、子育て支援に関する情報を収集し必要に応じて提供している。	B
		5	一時預り・休日保育の実施。	B
		6	保育園からの情報の提供をしている。	B
	地域における連携・交 流	1	乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。	B
		2	子どもの医療や保健その他に関する問題について、連絡、相談する外部の関係機関を把握している。	B
		3	ボランティア、保育体験の人々を受け入れている。	B
		4	小学校との意見交換や合同の研究の機会などを設けて情報共有や連携を図っている。	B
5		施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	B	
III 体制 全般に 係る 観点	組織としての基盤の整 備	1	保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設置しているか。	B
		2	目標は前年度の反省を生かしているか。	B
		3	目標は全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	B
		4	職務内容が明確で、共同できる体制になっているか。	A
		5	各種会議を適切かつ効率的に進めているか。	A
		6	職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。	B

III 保 育 の 実 施 運 営 ・ 体 制 全 般 に 係 る 観 点	社会的責任の遂行	1 保育の実施と運営上の根拠となる法令、基本的な法令などを理解し、遵守している。	A
		2 苦情解決制度の仕組みが確立され、保護者に周知されるとともに機能している。	B
		3 個人情報の取扱いはガイドラインに基づいて実施されている。	A
		4 施設長としての役割と責任を理解し、質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮する。	A
	健康及び安全管理	1 感染症発生時に、発生状況や感染予防策について保護者に通知している。	A
		2 不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携対応している。	B
		3 健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達している。	A
		4 子どもの健康情報を共有し、子どもの既往症（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、全ての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	A
		5 アレルギー疾患、慢性疾患を持つ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	A
		6 アレルギー疾患を持つ子どもに対し、栄養士、調理員と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A
		7 衛生管理マニュアルを基に、清掃・消毒などを行い、清潔・適切な状態を保っている。	A
		8 施設、設備の安全点検を点検マニュアルに沿って適宜行い、不具合な箇所への必要な対策をとっている。	A
		9 地震・火災・不審者侵入時などの緊急対応手順を理解している。	A
	職員の資質向上	1 保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A
		2 業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告・連絡・相談を実践している。	A
		3 問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している。	A
		4 保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めている。	A
		5 適宜、園内研修を行ったり、各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	A
		6 保育に関する専門書を読んだり、研修に参加し知識や技術の向上に努めている。	B

<園全体の評価>

・行事や保育を見直し、「子ども主体」の保育とはどのようなものかを職員間で話し合う機会を増やすことができた。確固たる目標は定まらなかったが、職員間で保育の振り返りをしたり、子どもの姿を伝え合う機会が増えたことは良かった。

・新入職員が安心して働けるようにメンター制度を取り入れた。手探りであり、成果は不明だが、制度ができたことで新入職員（メンティー）と先輩職員（メンター）が会話する機会が多くなった。不安なことや分からないことをまず誰に聞けばいいかがはっきりし、解消、解決までのスピードが上がったように見えた。

・新たな行事の在り方を模索し、運動会や作品展など、いままでにない形を職員間相談を重ね、作り上げることができた。保護者からは評価をいただけ、職員も手ごたえを感じたように見えた。

・ICT化が進み、職員は全体的にパソコンやタブレットを使いこなせるようになってきた。そのためいくつかのルールを新たに制定したり、変更したりもした。保護者とのやりとりもアプリを使うことが増え、ペーパーレスにもつながり、ペーパーごみも減った。

<来年度の課題>

・保護者の登園準備の負担軽減や、保育者の業務軽減の目的で、紙おむつや紙エプロン、手口拭きのサブスクを導入すべく準備を進めていく。紙おむつの処分についても園で廃棄できるよう予算の確保も考えていく。

・園内での現金の取扱いを最低限にするため、口座引き落としの準備を進める。

・保護者が園内に入り朝の準備をしてもらったり、園内の行事等で多くの保護者や祖父母に園の様子や保育を診てもらおう

ような機会を作る。

・開園18年となり、様々な物品の故障が予想される。運営がひっ迫しないようにこまめな点検や交換、買い替えなどを計画的におこなっていく。

・物価や光熱水などがますます高騰することが予想される。節電や備品の節約も心がける。